

平成19年度 崇城大学 薬学部 一般入学試験問題(前期日程)2日目  
数学I・数学II・数学A・数学B(平成19年2月1日)80分

1 次の各問に答えよ。

(1) 方程式  $x^3 + ax^2 + bx - 12 = 0$  が  $\frac{4}{1 - \sqrt{3}i}$  ( $i$  は虚数単位) を解にもつとき、実数  $a, b$  の値を求めよ。

(2) 6個の数字  $0, 1, 1, 2, 2, 3$  を全部使って6桁の整数を作る。

(a) 6桁の整数はいくつできるか。

(b) 200000以上の偶数はいくつできるか。

2 直線  $y = x$  上を動く点  $P$  から放物線  $y = x^2 + 1$  に2本の接線を引き、接点を  $Q, R$  とする。線分  $QR$  の中点  $M(X, Y)$  とするとき、 $Y$  の最小値を求めよ。

3 平面上に  $\triangle ABC$  がある。この平面上の点  $P$  に対して  $AP$  の中点を  $Q$ 、 $BQ$  の中点を  $R$ 、 $CR$  の中点を  $S$  とする。2点  $P, S$  が一致しているとき、次の各問に答えよ。

(1)  $\vec{AB} = \vec{b}$ 、 $\vec{AC} = \vec{c}$  とするとき、 $\vec{AP}$  を  $\vec{b}, \vec{c}$  を用いて表せ。

(2)  $\triangle PQR$  と  $\triangle ABC$  との面積比を求めよ。

## 解答例

$$\boxed{1} \quad (1) \quad \frac{4}{1 - \sqrt{3}i} = \frac{4(1 + \sqrt{3}i)}{(1 - \sqrt{3}i)(1 + \sqrt{3}i)} = 1 + \sqrt{3}i$$

これが方程式の解であるから

$$(1 + \sqrt{3}i)^3 + a(1 + \sqrt{3}i)^2 + b(1 + \sqrt{3}i) - 12 = 0$$

ゆえに  $-8 + a(-2 + 2\sqrt{3}i) + b(1 + \sqrt{3}i) - 12 = 0$

整理して  $(-2a + b - 20) + (2a + b)\sqrt{3}i = 0$

$a, b$  は実数であるから  $-2a + b - 20 = 0, 2a + b = 0$

これを解いて  $a = -5, b = 10$

(2) (a) 6個の数字 0, 1, 1, 2, 2, 3 の並べ方は,

$$\frac{6!}{1!2!2!1!} = 180 \quad (\text{通り})$$

数字 0 を一番左に並べ, 残りの数字 1, 1, 2, 2, 3 の並べ方は

$$\frac{5!}{2!2!1!} = 30 \quad (\text{通り})$$

よって, 6桁の整数は  $180 - 30 = 150$  (通り)

(b) 200000 以上の偶数は, 最高位が 2 または 3, 一の位が 0 または 2 であるから, 次の 4 つの場合を求めればよい.

[1] 2     0 の場合

間に 1, 1, 2, 3 が並ぶ場合の総数で  $\frac{4!}{2!1!1!} = 12$  (通り)

[2] 2     2 の場合

間に 0, 1, 1, 3 が並ぶ場合の総数で  $\frac{4!}{1!2!1!} = 12$  (通り)

[3] 3     0 の場合

間に 1, 1, 2, 2 が並ぶ場合の総数で  $\frac{4!}{2!2!} = 6$  (通り)

[4] 3     2 の場合

間に 0, 1, 1, 2 が並ぶ場合の総数で  $\frac{4!}{1!2!1!} = 12$  (通り)

[1] ~ [4] から  $12 + 12 + 6 + 12 = 42$  (通り)

2 Pの座標を  $(k, k)$  とする .  $y = x^2 + 1$  を微分すると  $y' = 2x$

接点の座標を  $(t, t^2 + 1)$  とすると , 接線の傾きは  $2t$  となるから , その方程式は

$$y - (t^2 + 1) = 2t(x - t)$$

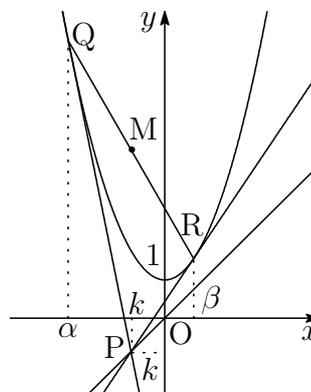
この直線が点  $P(k, k)$  を通るから

$$k - (t^2 + 1) = 2t(k - t)$$

よって  $t^2 - 2kt + k - 1 = 0 \quad \dots \textcircled{1}$

この  $t$  に関する 2 次方程式の判別式  $D$  は

$$\begin{aligned} D/4 &= (-k)^2 - (k - 1) = k^2 - k + 1 \\ &= \left(k - \frac{1}{2}\right)^2 + \frac{3}{4} > 0 \end{aligned}$$



であるから ,  $\textcircled{1}$  は異なる 2 つの実数解をもつ .

この 2 つの解を  $\alpha, \beta$  とし , これらに対応する点をそれぞれ  $Q(\alpha, \alpha^2 + 1)$  ,  $R(\beta, \beta^2 + 1)$  とする . また解と係数の関係から

$$\alpha + \beta = 2k, \alpha\beta = k - 1$$

であるから

$$\begin{aligned} Y &= \frac{(\alpha^2 + 1) + (\beta^2 + 1)}{2} = \frac{(\alpha + \beta)^2 - 2\alpha\beta + 2}{2} \\ &= \frac{(2k)^2 - 2(k - 1) + 2}{2} = 2k^2 - k + 2 \\ &= 2\left(k - \frac{1}{4}\right)^2 + \frac{15}{8} \end{aligned}$$

よって ,  $Y$  の最小値は  $\frac{15}{8}$

3 (1)  $\vec{AP} = \vec{p}$  とおく .

Q は AP の中点であるから

$$\vec{AQ} = \frac{1}{2}\vec{p}$$

R は BQ の中点であるから

$$\begin{aligned}\vec{AR} &= \frac{1}{2}(\vec{AB} + \vec{AQ}) \\ &= \frac{1}{2}\left(\vec{b} + \frac{1}{2}\vec{p}\right) = \frac{1}{2}\vec{b} + \frac{1}{4}\vec{p}\end{aligned}$$

S は CR の中点であるから

$$\begin{aligned}\vec{AS} &= \frac{1}{2}(\vec{AC} + \vec{AR}) \\ &= \frac{1}{2}\left\{\vec{c} + \left(\frac{1}{2}\vec{b} + \frac{1}{4}\vec{p}\right)\right\} = \frac{1}{4}\vec{b} + \frac{1}{2}\vec{c} + \frac{1}{8}\vec{p}\end{aligned}$$

2点 P, S が一致しているとき,  $\vec{AP} = \vec{AS}$  であるから

$$\vec{p} = \frac{1}{4}\vec{b} + \frac{1}{2}\vec{c} + \frac{1}{8}\vec{p}$$

$$\text{よって } \vec{p} = \frac{2\vec{b} + 4\vec{c}}{7}$$

(2) QA = QS, QB = 2QR であるから

$$\triangle QAB = 2 \times \triangle PQR \quad \dots \textcircled{1}$$

RB = RQ, RC = 2RP

$$\triangle RBC = 2 \times \triangle PQR \quad \dots \textcircled{2}$$

PC = PR, PA = 2PQ であるから

$$\triangle PCA = 2 \times \triangle PQR \quad \dots \textcircled{3}$$

$\triangle ABC = \triangle QAB + \triangle RBC + \triangle PCA + \triangle PQR$  であるから ①, ②, ③ より

$$\triangle ABC = 7 \times \triangle PQR$$

よって  $\triangle PQR : \triangle ABC = 1 : 7$

